

(別紙様式)

(A3判横)

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立川口東高等学校)

目指す学校像	生徒一人一人が主体的・対話的で深い学びを実感でき、全教職員が地域と協働し生徒の「より良く生きる力」を育む学校
--------	--

重点目標	1 確かな学力を育成し、生徒一人一人の個性と能力を伸長する。 2 3年間を見通したキャリア教育及び進路指導計画に基づき、生徒一人一人の進路希望を実現する。 3 「時を守り、場を清め、礼を正す」を生徒指導の指針とし、生徒とのコミュニケーションを大切に適切な生徒指導を行うとともに、特別活動等の活性化に取り組む。 4 保護者・中学校・地域社会との連携を密にし、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2月1日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 ○生徒は授業に落ち着いて取り組んでいるが、家庭学習時間は少し減少した部分がある。 【課題】 ○生徒の学習習慣を一層確立させる必要がある。 ○『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて学校全体で授業改善に取り組む必要がある。	○生徒の家庭学習時間を増加させる。 ○『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた学校全体での取り組みをさらに進める。	①各教科・分掌と連携を取り、週末課題やスタディプログラム等生徒が学習する状況を作る。 ④公開授業、授業見学週間、研究協議による校内研修を充実させ、教科会を活性化させる。 ②「未来を拓く『学び』プロジェクト」研究チームを組織し、新規教材の開発や既存教材のアレンジを行う。	①アンケート(保護者・生徒)における「授業への取り組み」、「家庭学習」の項目の結果が前年度より向上したか。 ④公開授業や授業見学、研究協議による校内研修をどの程度行ったか。 ②協調学習を実施した授業の回数、各教科の全体の授業に対する生徒の活動の時間の割合が前年度より増加したか。	①勉強時間アンケート(2学期末実施)において、ほぼ全ての項目の数値(学習時間)が上昇した。特に、「普段の平日」において『30分未満』が12%減少、『1時間未満』、『3時間以上』が上昇したことは特筆すべき点である。今後はその内容等にも着目し、より学びへの意識を高めていきたい。 ①校内研修は、「未来を拓く『学び』プロジェクト」の一環、各年次研修、2回の授業公開週間を行った。 ②協調学習においては、昨年度同様公開授業として国語、数学、理科、社会、英語、芸術(音楽)で行った。また、公開授業以外にも協調学習を行った教科が増えた。	A A
2	【現状】 ○生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指して、入学から卒業までの3年間を見据えた系統的な進路指導を行っている。 【課題】 ○進学希望者は、学力向上への早い時期からの取り組みが必要である。また、入試制度改革への対応も求められている。 ○就職希望者は将来を見据え社会に出て行く自覚を持たせる必要がある。 ○進学・就職にかかわらず、最終的に社会に出て通用する力を育てていく必要がある。	○進路実現をサポートするため、進路ガイダンスの充実や実力テストの有効活用を進める。また、小論文指導や進学補習の企画・調整を行っていく。 ○キャリア教育を充実させる。	①進路行事を適切な時期に効果的に実施する。 ②各進路行事を通じて進路意識の向上を促し進路実現への意欲を喚起する。 ③スタディサプリ・スタディプログラムを普段の授業と連携させ、生徒の家庭学習ツールとして定着させる。	①事後アンケートで前年度からの改善が見られたか。 ②卒業時の進路未決定者が前年度より減少したか(受験浪人を除く)。 ③スタディサプリ・スタディプログラムによる課題の実施状況や動画の視聴状況が前年度より向上しているか。	①各種の進路行事や業者テストについて、系統性をもって実施できた。 ②昨年度39期生は、卒業時点で浪人確定以外の進路未決定者は301人中8名(2.6%)だった。40期生、形としては1月20日現在、受験や就職活動中以外の「未定」・「アルバイト」が10名(3.2%)いるが、学費を貯める等の理由がある生徒も含まれている。 ③数学科を中心に週末課題を配信している。1年生では英語科も2学期から週末課題の配信を行っている。教科では視聴や課題提出状況の確認も行っている。 ④キャリア教育はほぼ計画通り実施した。「ハートフルデイ」の参加者が昨年より増加した。	B B
3	【生徒指導の現状】 ○各学年の生徒指導部が健全な学校生活に必要な環境づくりを継続して行っている。 【生徒指導の課題】 ○学校をより良くするためには学年内の生徒指導部が動くことに対して、分業化せずに他の教員の協力を得て学校全体で生徒指導にあたる必要がある。 ○継続的な交通安全教室の展開とネットモラル向上に向けた働きかけをする必要がある。	○遅刻数の減少、特別指導件数の減少、基本的な生活習慣の更なる確立を目指す。 ○生徒指導における負担が一部の教員のみにならないように配慮し、協力を求めていく。	①年間を通して、通学時の交通安全指導を行い、交通ルール遵守及びマナーの改善を行う。 ②ネットモラル向上にむけて専門家による講演会を利用し生徒への啓発活動を行う。	①交通事故件数、問題行動件数、近隣からの苦情の件数を抑えることが出来たか。 ②スマートフォン等におけるトラブルの件数を抑えることが出来たか。	①自転車等交通マナーの改善に一層取り組む必要がある。 ①交通事故件数、苦情件数は昨年度と大きく変わらない。問題行動件数はやや減少した。毎年継続している朝登校指導や、生活委員の生徒主体で実施した自転車交通安全伝達講習会等により、交通マナーの意識を高めた。 ②ネットマナー向上やトラブル防止に向けた講演会を大手携帯電話会社に依頼した。他にも生徒指導主任講話や学年集会等での注意喚起や啓発活動を行ったがネットマナー違反から懲戒指導に発展する事案が数件発生したので引き続き啓発していく必要がある。	B B
3	【特別活動の現状】 ○学校行事に前向きにかかわろうとするリーダーは以前よりも増えた。一方でリーダーの率いるやる気集団に隠れ、全く無関心な層は中々減少するには至っていない。 【特別活動の課題】 ○学校行事や部活動にただ惰性的に取り組むのではなく、周囲に良い影響を与える、積極的に取り組める生徒に育てていく必要がある。	○生徒が主体的に学校行事に参加し、活躍・成長する場を提供する。	①ポスターや学校ホームページの活用等、文化祭の学校外へに向けたPRの機会を工夫する。 ②文化祭ポスターを公募する等、生徒が行事の際に自分で考え、創意工夫する機会を提供する。 ③文化祭の企画作成プロセスを明確にし、企画作成に責任感を持たせる。各団体に指導・連絡をしっかりと行う。	①文化祭の生徒アンケートの結果において、「積極的に関わった」「企画が成功した」「企画に満足した」などの項目が前年度より向上したか。 ②文化祭の一般来場者数が前年度より増加したか。 ③ポスターの応募数や有志団体の参加数が前年より増加したか。また、作品やパフォーマンスの質は高まったか。 ④各団体において書類の提出期限の遵守や、企画書の質の向上などが見られたか。	①文化祭生徒アンケートにおいて、前年度より向上した回答が多くみられた。 ②文化祭の一般来場者は前年度と比べほぼ横ばいの数字であった。 ③有志団体の参加数は前年度より増加し、パフォーマンスの質もさらに向上したように思われた。 ④各団体ともに書類の提出期限を遵守しており、企画書の内容もさらに向上が見られた。	B
4	【現状】 ○広報活動に組織で取り組んでいるが、前年度の進路希望状況調査の結果は、10月1日現在で「1.01倍」、12月15日現在で「0.97倍」であった。2月の志願確定倍率は「1.21倍」だが、第一志望として選ばれる学校になっていない現状があるようである。 【課題】 ○年間を通じた計画的な広報の仕方をより一層工夫していく必要がある。	○3月卒業予定者進路希望状況調査の10月1日現在で「1.1倍」以上、令和2年度入学者選抜において実質倍率「1.1倍」以上を達成する。	①教員による中学校訪問や生徒の母校訪問をより戦略的に実施する。また、教頭を中心に管理職で地元の塾訪問を行う。 ②学校説明会の実施時期や内容について、工夫と改善を行う。 ③学校HPを随時更新するとともに、利用者の視点で改善する。また、広報誌や学校新聞を地域で配布するなど広報活動を積極的・戦略的に行う。	①教職員全員で取り組めたか。訪問の成果を共有できたか。 ②具体的な工夫・改善が見られたか。 ③学校HPでタイムリーに学校の活動を発信できたか。また、利用者の視点で見やすくなったか。広報誌や学校新聞を効果的に活用できたか。	①生徒の母校訪問を6月、全教員による中学校訪問を11～12月に実施した。中学校の進路講演会や上級学校訪問、塾訪問を管理職が中心となり実施した。中学校訪問で集めた情報を集約し、職員会議で共有した。 ②学校説明会の説明スライドを毎回更新したほか、校内見学の在り方を見直した。生徒会による学校行事紹介も内容を更新し、好評を得た。 ③学校HPの更新を長期休業中を除きほぼ毎日更新することができた。県のブラウザ更新にともない、HPのレイアウトをリニューアルした。広報誌を3号発行したほか、学校新聞を様々な広報の機会に活用した。	A

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	9名
	事務局(教職員)	7名

学校関係者評価
実施日 令和2年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>生徒の勉強時間を増やす方策について、一層の努力をお願いしたい。</p> <p>授業の中で生徒に学習の振り返りをさせているのは良い取り組みである。</p> <p>「未来を拓く『学び』プロジェクト」は教員同士の情報交換を中心に進められており、効果的だと思われる。</p>
<p>センター試験受験者及び一般入試受験者が数年前より増加している。推薦ありきの選択が変わりつつあるのは良い傾向ではないか。</p> <p>進路について目的意識を持った生徒を育成したい。</p> <p>生徒が体験を通して進路選択を考える機会を持てるよう、校外の教育機関、企業、団体等との連携を作っていく必要がある。</p>
<p>交通安全指導について、立哨指導の範囲を拡大するなど、PTAの協力も得ながら、一層の取り組みを期待する。</p> <p>近隣の中学校でも本年4月から自転車通学が始まる。地域の連携を密にしていきたい。</p> <p>SNSトラブルについて、引き続き被害を減らす努力を続けてほしい。</p>
<p>文化祭を複数年継続して参観してきて、生徒が自分たちで企画・運営する力が高まっていると感じる。パフォーマンスのレベルも充実しており、生徒の自主性が高まっている。</p> <p>生徒が学校生活で感じていることを生徒の言葉で発信できる機会を増やせるとよい。</p>
<p>卒業生が母校を訪問するのは受け入れる中学校にとっても良い機会となる。逆に教員の訪問は、中学校も忙しく、対応が十分にできないことがある。</p> <p>生徒募集については人口が増えている美園地区の開拓に力を入れるべきである。</p>